

2020年12月13日発行

No.48

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】 https://www.waseda-honjo.jp

かぜ 緑 風

3月2日から要請された全国一斉の休校措置以来、本庄学院も多く、試行錯誤と苦勞を重ねながら今日に至りました。学院生諸君や保護者の皆様には、この間、本庄学院の姿勢や措置に対してご不満も多かったと想像致します。オンライン・分散登校といった授業展開方法やその内容のみならず、行事や部活動への対応、情報提供のあり方等様々な面においてご意見をいただきました。弁解になりませんが、教員一同何度でもZoomで会議を重ねながら方策を議論して参りました。恐らくこれ以上の対応は学校として出来なかつたと思っております。



3月2日から要請された全国一斉の休校措置以来、本庄学院も多く、試行錯誤と苦勞を重ねながら今日に至りました。学院生諸君や保護者の皆様には、この間、本庄学院の姿勢や措置に対してご不満も多かったと想像致します。オンライン・分散登校といった授業展開方法やその内容のみならず、行事や部活動への対応、情報提供のあり方等様々な面においてご意見をいただきました。弁解になりませんが、教員一同何度でもZoomで会議を重ねながら方策を議論して参りました。恐らくこれ以上の対応は学校として出来なかつたと思っております。

開気を感じることは出来ないが、その分色々な視点から本庄学院への理解を深めることが出来るし、いつでも家族で視聴できる。というご意見をいただきました。本校の特色の1つが国際交流であり、それに参加することを期待して入学した生徒も多いと思います。しかし、今年度はまったく相互訪問が出来ません。それでも世界中で、交流の機会を継続べくオンラインでシンポジウムを開催されています。本庄学院も韓国のハナ高校のシンポジウムや立命館高校が主催するJapan Science School Fairに参加しています。姉妹校であるタイのMahidol Witarnasorn School、シンガポールのNational Junior College、この後1月にシンポジウムを主催者として開催する予定です。

今年度の稲稜祭を総括するとすれば、「想定外」という言葉を使わざるを得ないでしょう。新型コロナウイルスの影響に端を発したこの「想定外」たちは例年通りの稲稜祭を遠く存在にしていまいました。その状況の中で稲稜祭実行委員長として活動した経験は、稲稜祭という行事の本質を考えさせてくれました。

今年度の稲稜祭は何の為にあるのか。毎年外部から多くのお客様が訪れ、大盛り上がり、稲稜祭を内部だけで開催するなど想像もしたことがありませんでした。個性溢れるクラス企画も、屋外ステージも、後夜祭の紺碧の空も無い稲稜祭など無くてもいいのではないかと、考え始めたとき、この問いに立ち返りました。稲稜祭は学院生の活躍の場である、これが私の結論でした。稲稜祭を引退の節目とする部活動も多いため、彼らの活躍の場を作るのが私たち実行委員の仕事であると思ひ、ステージ以外の方法を模索しました。さらに、部活動関係なく全ての生徒が活躍できる場として、全クラスに企画動画の配信をしていただきました。

二つに、「稲稜祭の意味とは何か」。オンラインでの配信の上、教室で動画を見る稲稜祭に意味はあるのか。わざわざ学校に来る必要はなかったのではないかと。そう思った方もいることでしょう。しかし私は、学校に集まることに意味はあった、と思っています。「同じ場所に集まって、同じことをして、それぞれの気持ちを共有する。」これこそが稲稜祭のようなイベントの意味であり、本質だと考えます。稲稜祭当日、教室で笑いが巻き起こったのを聞き、この意味をひしひしと実感しました。

ここまで稲稜祭に対する私の思いを書き連ねてきましたが、実行委員長として実行委員会の思いも(半ばは忝意的な代弁ではありますが)伝えたいと思います。特に中心的な役割を持つ幹部たちの中で、「妥協ではなく挑戦」という言葉が生まれました。新型コロナウイルスの影響でやむを得ずオンラインでの開催という形にはなりましたが、それを仕方なしの妥協と捉えるのではなく、新たな形への挑戦と捉えよう、という意気込みの表れだと思っています。冒頭で述べたようにこの「挑戦」には多くの想定外が付き纏いました。これを書こうとするとただの苦勞話になってしまうため割愛しますが、それらの想定外に対処しつづけて、稲稜祭を形にできたことは、他ならぬ先生がたや稲稜祭実行委員のおかげだと強く確信しています。

稲稜祭が終わってから、長い間、気がなつていたのであります。学院生の皆さんの眼に、今年の稲稜祭はどのようにつづっていたのでしょうか。こちら不手際や都合で多くの不便を強いてしまったかもしれません。しかし、この第39回稲稜祭に参加して、「稲稜祭、オンラインでも意外と楽しかった」とあるじゃん。少しもそう思っていないだけならば、私たちの挑戦の甲斐もあつたというものです。



そのすべの月に、表現で、感謝している、うほ、ありません。本当にありがとうございました。

It is now December and 2021 is only a matter of weeks away. This month is a busy time for British people, who are frantically preparing for the festivities at the end of the month. With this in mind, allow me to take this opportunity and share with you some aspects of Christmas.

The season begins with the putting up of the Advent calendar (from the Latin verb 'adventus' meaning arrival) on December 1st. These calendars are traditionally made from card and are a fun way to experience the countdown to Christmas Day. The idea is simple: each day you open a 'window' on the calendar, behind which is usually a picture or a yummy chocolate (---if you have the money to splash out on an extravagant one!). The numbers go in ascending order and finish with number 24 (representing Christmas Eve).

Carol singing is also a big part of the build-up to Christmas Day where people enjoy listening to the angelic voices of carol singers at church or occasionally as they go from house to house, spreading messages of joy and celebration. As children, we practise these songs at school and many people know them off by heart. I highly recommend the choir of King's College, Cambridge.

A recent phenomenon that has swept through the country in recent years is the Christmas market. As an exchange student in Germany, I spent a fantastic time at the local Christmas market where stalls would adorn the main square in the centre of the city. The sights, sounds and smells were a wonder to behold and I still have fond albeit tipsy memories of the Glühwein (mulled red wine).

Finally, Christmas would not be Christmas without the traditional Christmas Dinner on December 25th. The whole family sits down for a large meal of roast turkey or chicken with various vegetables including roast potatoes and Brussels sprouts (of which I am most definitely NOT a fan!) smothered in gravy. This is then followed by Christmas pudding? a rich, heavy dessert that is often eaten with either custard or cream. Mmm! After all this, it is customary to take a nap in front of the TV before tuning into the Queen's Christmas Speech which is traditionally broadcast at 3pm.

Well, I hope I have piqued your interest in an important part of British culture and that you may even get to experience some of the excitement of the Christmas season for yourself in the future. Wishing you all the best for a peaceful 2021 that will bring hope to everyone.

「妥協ではなく挑戦」

稲稜祭実行委員長 上山 拓真



今年度の稲稜祭を総括するとすれば、「想定外」という言葉を使わざるを得ないでしょう。新型コロナウイルスの影響に端を発したこの「想定外」たちは例年通りの稲稜祭を遠く存在にしていまいました。その状況の中で稲稜祭実行委員長として活動した経験は、稲稜祭という行事の本質を考えさせてくれました。

今年度の稲稜祭は何の為にあるのか。毎年外部から多くのお客様が訪れ、大盛り上がり、稲稜祭を内部だけで開催するなど想像もしたことがありませんでした。個性溢れるクラス企画も、屋外ステージも、後夜祭の紺碧の空も無い稲稜祭など無くてもいいのではないかと、考え始めたとき、この問いに立ち返りました。稲稜祭は学院生の活躍の場である、これが私の結論でした。稲稜祭を引退の節目とする部活動も多いため、彼らの活躍の場を作るのが私たち実行委員の仕事であると思ひ、ステージ以外の方法を模索しました。さらに、部活動関係なく全ての生徒が活躍できる場として、全クラスに企画動画の配信をしていただきました。

二つに、「稲稜祭の意味とは何か」。オンラインでの配信の上、教室で動画を見る稲稜祭に意味はあるのか。わざわざ学校に来る必要はなかったのではないかと。そう思った方もいることでしょう。しかし私は、学校に集まることに意味はあった、と思っています。「同じ場所に集まって、同じことをして、それぞれの気持ちを共有する。」これこそが稲稜祭のようなイベントの意味であり、本質だと考えます。稲稜祭当日、教室で笑いが巻き起こったのを聞き、この意味をひしひしと実感しました。

ここまで稲稜祭に対する私の思いを書き連ねてきましたが、実行委員長として実行委員会の思いも(半ばは忝意的な代弁ではありますが)伝えたいと思います。特に中心的な役割を持つ幹部たちの中で、「妥協ではなく挑戦」という言葉が生まれました。新型コロナウイルスの影響でやむを得ずオンラインでの開催という形にはなりましたが、それを仕方なしの妥協と捉えるのではなく、新たな形への挑戦と捉えよう、という意気込みの表れだと思っています。冒頭で述べたようにこの「挑戦」には多くの想定外が付き纏いました。これを書こうとするとただの苦勞話になってしまうため割愛しますが、それらの想定外に対処しつづけて、稲稜祭を形にできたことは、他ならぬ先生がたや稲稜祭実行委員のおかげだと強く確信しています。

稲稜祭が終わってから、長い間、気がなつていたのであります。学院生の皆さんの眼に、今年の稲稜祭はどのようにつづっていたのでしょうか。こちら不手際や都合で多くの不便を強いてしまったかもしれません。しかし、この第39回稲稜祭に参加して、「稲稜祭、オンラインでも意外と楽しかった」とあるじゃん。少しもそう思っていないだけならば、私たちの挑戦の甲斐もあつたというものです。

第3学年行事 (遠足・球技大会)を 振り返って

3年生の修学旅行はコロナの影響で中止となりました。代替えとして3コースに分かれて日帰り遠足と球技大会が実施されました。

制限された時代の中での可能性を求めて 『大谷資料館・東武ワールド スクウェア』の旅

3年B組 佐々木 彩佳

なぜ、コロナ禍の真ただ中に修学旅行が重なってしまったのか。よりによって、冷たい雨まで…。悪いことは重なる、まさにそんな言葉が的中する遠足の幕開けであった。

最初に訪れたのは『大谷資料館』である。広さ約2万㎡、深さ約30mに及ぶ「大谷石地下採掘場跡をはじめ手掘り時代から機械化そして現在に至るまでの採掘道具・運搬方法の移り変わりを学んだ。坑内の気温は12℃、まるで巨大な冷蔵庫の中にいるような寒さであったが、それ以上に、当時の知恵を駆使し、ツルハシや背負子だけで80kg以上もある石を命懸けで運んだ歴史から伝わる、独特のピンと張り詰めた緊張感や重みが蘇々と感ぜられ、心が洗われた。

また今回、巨大地下空間には、華道家・假屋崎省吾さんの作品が展示されていたが、映画やテレビの撮影などにも数多く利用され、非日常ともいえるような神秘的・幻想的な世界が醸し出され、感動までも与えてくれた。

次に向かったのは、『東武ワールドスクウェア』である。世界中の有名な建築物や遺跡などを25分の1の縮尺で再現したテーマパークである。クイズ番組『東大王』でも話題にのぼり、恥ずかしながら、私自身かなり気になっていた。実際に、国内外の様々な建造物が精巧に再現されており、各建造物の大きさや造りは勿論、人々の生活文化までも垣間見ることができた。

コロナの影響により、多くの学校ではオンライン授業が展開された。しかしながら、校外学習までも、現地に足を運ぶことなく、ドローンやVR技術などを利用した学びを実現することは容易ではない。そうした意味でも、屋外での見学や年齢を問わず体感し、楽しむことができるこの地は、画期的な場所であると言えるだろう。

修学旅行・体育祭の中止、稲穂祭のオンライン開催など、高校生活最後の楽しみが無くなったと、諦めと絶望を感じた人も少なくはない。しかし、先人の知恵や文明の力、人間の努力は、「無を無限大にする可能性を秘め、進化させてきた。今回の訪問先もまたその賜物であり、例外ではない。制限された時代の中で、現実在即した最善の

策を導き出すために、私達が譲れないこと、創造すべきことを正しく取捨選択し、新たな可能性に果敢に冷静にチャレンジしていかなければならないと強く感じた。先生方にはこのような機会を与えてくださり、心より感謝しております。本当に有難うございました。

〈大谷資料館〉



ツルハシでの採掘風景



大谷石地下採掘場跡



サン・ピエトラ大聖堂



スフィンクス



ウエストミンスター寺院

3年生の貴重な思い出

3年C組 秋庭 希美

まず、このような状況下の中で修学旅行の代替行事として遠足を企画してくださった先生方や旅行会社の方に感謝申し上げます。日帰りではありましたが遠足に友人達といけたことで、3年生の思い出を残すことができました。私のグループは長野県の上田城と善光寺に行きました。4つのコースの中で最も行きたいと強く感じたのが長野県だったのでとても楽しかったです。

まず上田城について集合写真を撮ったあと、近くの上田市立博物館に立ち寄りしました。中では鎧や文書・立て看板など歴史的な物が多く展示され、その当時の人々に思いが読み取れました。また上田城跡の櫓の中を見学しました。銃を差し込む狭い窓が沢山あり、また構造的にも当時の戦い方や歴史が見て取れました。

その次に善光寺に行きました。寺院や門の大きさが荘厳さに惹かれました。友人と胎内巡りをした際には、あまりに暗すぎて友人としがみつかながらなんとか出口まで出ましたが、出てから今行つたのが胎内巡りであったことを知ったため少し後悔しました(笑)。その後善光寺の門を出て参道を歩き、友人や家族、知人へのお土産を選び、後にここに書くことが難しい程の思い出深い行事の一つになりました。引率してくださった羽田一郎先生・成瀬先生をはじめとした先生方やバスガイドの吉田さんや運転手の方など旅行に携わってくださった方々に重ね重ねお礼申し上げます。心残り無く卒業できそうです！



6年ぶりの日光

3年H組 沖山 裕太

学院長から修学旅行の中止を告げられたのは9月17日のH.Rの時でした。なんと多くの心構えはしていましたが、それでもやるせなさに襲われたのは今でも覚えています。しかしそれでもこの厳しい情勢の中なんとか学院生に思い出を作ってあげたいという一心で日帰り遠足という形で計画を組み直してくださった先生方、そして旅行会社の方々はこの貴重な機会をくださったことを感謝申し上げます。

今回、私が選んだ栃木コースでは、日光の観光地を巡りました。小学校の修学旅行で行った以来の二回目の日光は、まるで初めて来たのとはなにかと思っほと心躍らせる場所でした。

二時間にわたるバス旅も終わりに近づいたころ、気付けば窓の外には若手風な街並みが広がっていました。最初に訪れた日光東照宮では、ガイドさんの説明を聞きながら、かの有名な三猿や眠り猫、そして六陽門などの歴史的な建造物を見ました。小雨の中にそびえたつ東照宮には、日常生活では感じられないような、そして小学生の私には理解できなかった荘厳な雰囲気やわびさびがありました。

次に訪れた華嚴の滝は普段それが見せている姿とは違い、霧の奥深くを流れていました。その全容を見せない滝は、一つの景観としてだけではなく、音や冷えた空気を通して楽しむことができました。

そして最も印象深かったのはバスでいろは坂を上っていた時の絶景です。山腹から見た山一面の紅葉の美しさには何か心惹かれるものがありました。思えばこの多忙な時期の中、もう秋の季節だとうのに紅葉をまじと見た記憶はなく、近所の公園や学院などの身近な場所にあるような木々でさえも、その衣替えがさも当たり前のように見過ごしてしまっていました。しかし、紅葉は一年の中で最も秋に見られたい貴重な現象であること、またその美しさを再認識しました。



時期や気候によって姿を変える景色はそのすべてが美しく、一日を通して日光を楽しむことができました。このような充実した一日を計画して下さいありがとうございました。

球技大会を終えて

3年E組 利川 晴菜

コロナウイルスの感染拡大の影響で様々な行事が中止となっていた中、感染予防をしながらではありますが球技大会を行うことが出来ました。女子は毎年バレーボールをやっていました。今年もバスケットボールとドッチボールの2種目に分かれてクラス対抗戦を行いました。毎日学校に登校してはいるものの、感染予防に気を遣うことが多くなっていたので、久しぶりに心から楽しむことができたと感じた人が多かったのではないのでしょうか。

私はバスケットボール部員として他のクラスの試合の審判もやりました。自分たちの試合はもちろんですが、他のクラスの試合を観ているものなども楽しそうでした。球技大会が終わったあとに、「バスケット楽しいね!」と沢山の子が声をかけてくれて、バスケットボール部員としてとても嬉しい言葉でした。勝つことが大事だったかもしれませんが、それ以上に楽しい思い出となったと思います。

また球技大会の後に行われたミニ体育祭も、雨の心配がありましたが無事に言うことができました。綱引きでは他のクラスを応援する姿もみられ、クラスという枠を越えた学年の関わりを目にしてスポーツの力を感じました。



絆を深めた球技大会

3年H組 広沢 琉海

今年の球技大会は、新型コロナウイルス感染症のこともあり、開催自体が危ぶまれたこと。しかし、先生方の協力はあるものの、生徒が十分に感染症対策に注意してくださったことで開催することができました。

球技大会では、種目を変更し、女子はバスケットボールとドッチボールとして男子がサッカーとバスケットボールを行いました。これは実行委員会全員が楽しめるようにということで変更しました。また今年は体育祭が中止になったことから球技大会の後にミニ体育祭ということで「綱引き」と「全員リレー」を行いました。

体育祭の全員種目は毎年みんなの絆が深まり、みんなが楽しみにしているものでもあったため、行うことができてよかったです。三年生は毎年この時期には修学旅行があります。しかし、修学旅行が中止となり、とても悲しい思いをしている学院生も多かったと思います。その中でも多くの学院生がこの球技大会を楽しみ、最後に球技大会で絆は深まりましたかという質問に本当に多くの学院生が手を挙げてくれたことはとても嬉しかったです。

時間も少なく、また感染症対策のこともあり、実行委員として出来たことは少なかつたですが、少しでも楽しんできたのだと思います。この球技大会を行った意味があったと思います。自分は二年連続で球技大会実行委員を務めたが、とても学びの多い時間となりました。今回の球技大会に関わってくださった全ての方に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



各種プログラム報告

◆国際交流(サイエンスフェア含む)

1. ハナ国際シンポジウム 2020 Hana 11th International Symposium 報告 (3年F組 西川なすな)

「2020年度が国際交流活動に不向きな年だった」というのは、あくまで例年通りの活動の実践を目指した場合の見解である。厳しい状況を「越えられる壁」と捉えた時、新たな挑戦の道が見つかる。夏休みに開催が予定されていた韓国の交流校Hana Academy Seoul主催のハナ国際シンポジウムは一時中止になった。しかし、参加を楽しみにしていた生徒や経験者が立ち上がり、オンライン開催に向けた協議が始まった。そして、例年よりも少し遅れた時期に開催が実現した。対面と比較して所謂「交流」の時間が少なくなってしまうこと、議論が浅くなってしまうことなどを懸念し、本番の事前事後に参加者が複数回顔を合わせる機会を作った。「できる範囲でできることをやる。」どんな状況であっても、これを実践できた人が成長するのではないかな。

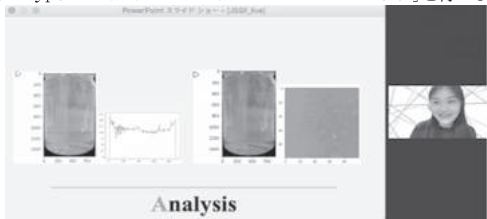
本学院5年間のSGH指定期間の国際交流活動における成長は著しいものであった。「文化交流」を目的としたプロジェクトとプレゼンテーションを通じた「意見交換」を目的としたものと大きく分けて2種類の活動形態がある。前者の特長は比較的に敷居が低いことだ。海外の学生と初めて交流する者にも明確な役割があり、食事や観光を共にすることで確実な友好関係を築くことができる。後者は事前事後が重要になる。本番は緊張が勝ってしまうことも珍しくないが、共に研究発表を乗り越えた仲間や学会の同期との繋がりは一生ものになる。

SGH指定期間が終了した今、今後の課外活動の在り方を考えるべきである。オンラインのプラットフォームが発展したことを利用した交流活動も更に盛んになるだろう。一方、本学院に欠如しているのは「地域に根差した活動」である。積極的に海外に目を向け続けた数年間、次のステージは地域交流ではなかろうか。



2. Japan Super Science Fair(JSSF) 2020 報告

JSSFは立命館高校が主催する、世界で最大規模の国際高校生科学シンポジウムです。本庄学院は2003年からずっと参加しています。今年度はコロナ禍の中、やむを得ずオンライン開催となり、11月1日(日)7日8日15日に、一日3時間程度の時間で実施しました。世界中の学校が参加しているため、時差を考え、アジア・中東地域までのAゾーンとヨーロッパ・アメリカ地域のBゾーンに分かれて実施し、7日8日の研究発表のみ、どちらのゾーンの参加者も視聴できるよう、発表を2回行うという、配慮を行っています。本庄学院からは3年西川なすな、2年柳本和奏・徳重咲が参加し、西川・徳重は動画で研究発表「Effects of Ethinyl Estradiol (EE2) on the male and female ratio of small freshwater shrimp, "Paratya compressa"」を行い、柳本は動画およびZoomで研究発表「Analysis and Simulate absorbed dose distribution by irradiating different types of radiation to Radiochromic Dosimeter」を行いました。



a. タイMahidol Wittayanusorn School(MWIT)、シンガポール National Junior College(NJC)、愛知県立半田高校、早稲田本庄の4校間国際シンポジウムについて

本年度はオンラインを含め、国際交流プログラムがほとんど実施できていません。例年相互交流を行っているMWIT、NJCおよび、MWITと交流のある愛知県立半田高校の4校の教員が相談し、1月にシンポジウムをオンラインで実施することとなりました。通常のシンポジウムは教員がコーディネーターし、参加生徒を募るのが一般的ですが、このイベントではなるべく関わる生徒を多くし、達成感を得られるようにと考え、計画からすべて4校の生徒の委員会にさせることが特徴です。ホスト校は国内2校が努めます。また、MWIT、NJCは世界的に有名な科学学校であり、半田高校はSSH校ですが、今回は関わる生徒を多くするために、学校紹介、地域文化紹介も含め、研究発表も理文問わず幅広く参加できるようにしたいと思っています。本庄学院からは、3年渡部瑛、2年森翼芽、小林唯夏、徳重咲、牧依瑠希、塚本優美、羽鳥寧々、柳本和奏、中岸美緒、1年中島真理子、西條 沙蘭がスタッフとして活躍します。学院生に、国際交流の良さが少しでも伝わるといいなと思います。

4. 特別講演「アフリカの多様性から考えるグローバルな社会と私たち〜新型コロナウイルスに対してアフリカって本当に「脆弱」なの?」

5月25日(月)に宇都宮大学国際学部助教の藤井広重先生によるオンライン特別講演が行われました。藤井先生は、NGOや国際機関に勤務した後に内閣府の研究員として南スーダンやマリに滞在し、その後、国連のプログラムにて南アフリカ・ケープタウン大学の研究員を務められました。2017年から現職につかれ、国際法、国際人権論を専門とされています。講演では、日本からは地理的に遠く身近とは言えない存在であるアフリカについて、アフリカの危機や脆弱性について、大学や紛争地での経験をもとに具体的にお話をしてくださいました。キャリア形成にもつながるような話題にも触れて頂き、また、講演後には生徒の質問にも答えて頂きました。生徒たちの質問は国際機関の仕事からアフリカについて、新型コロナウイルス対策についてなど途切れることなく多岐にわたり、一つ一つの質問に丁寧に答えて頂きました。参加者は100人を超え、参加できなかった生徒へ後日録画対応をするほどに盛況で、閉塞的な社会情勢下で生徒たちが考える糧を求めていることを実感する催しとなりました。



◆数理プログラム

1. プログラミングコンテスト

- ・SuperComputingContest 2020 決勝戦 文部科学大臣特別賞優秀賞、予選成績優秀賞
Team名 Sinkyu(3年 加藤響 3年瀧田愛澄 3年 中尾圭祐 3人)
スーパーコンピュータ上のプログラミングの予選で優秀な成績を残し、東日本全8校の決勝進出チームに選ばれました。また、スーパーコンピュータ「富岳」を用いたプログラミングの決勝戦において、優秀な成績を残しました。(https://www.gsisc.titech.ac.jp/supercon/main/attwiki/index.php?SupercomputingContest2020/%E4%BA%88%E9%81%B8%E7%B5%90%E6%9E%9C)
- ・SecHack365 2020 学習駆動コース 合格 2年 工藤 時大
総務省の学生向けセキュリティプロジェクトに採択され、1年間予算の援助を受けながら開発を行っています。
- ・パソコン甲子園 2020 予選成績優秀賞
3年 加藤響 3年瀧田愛澄 3年 中尾圭祐 2年 芹澤 祥吾 3年 松田 皓 3年 井手 康久 1年 蓮見 優太 1年 深野 真人
- ・AtCoder プログラミング検定PAST 中級 認定 3年 加藤響
様々なアプローチがある課題において、適切なアルゴリズムを選択し、高速なプログラムを作成することが出来ることと認定されました。
- ・AtCoder プログラミングコンテストランク: 緑
3年 加藤響 3年瀧田愛澄 1年 蓮見 優太 現場で働くプログラマーと同等に戦えるだけのプログラミング知識を証明するものです。
- ・A組 渡辺 晃久
未踏ジュニアスパーキリエーター認定 情報処理推進機構
タイトル「リレーマスター」
リレーの選手がバトンを持って走った時間を正確に測定する装置を開発 (慶応大学や首都大学へ、推薦枠で入学可能)
NHK高校講座「社会と情報」プログラミングに取り組む中高生として、出演。
文部科学省より、プログラミング開発のために50万円資金援助されている。
- ・D組 片倉 徹也
情報オリンピック Bランク

2. 科学コンテスト

- 3年 關 日葵 『泥の電池』製作
 - 3年 中尾 圭佑 『Pepper と赤外線アレイモジュールを用いた体温測定システムの構築と評価』
- JSEC(Japan Science and Engineering Challenge)2020で本校生徒上記2名が予備選考を通過(優秀賞)しました。JSECは朝日新聞社が主催する日本でもっとも権威のある高校生科学研究コンテストの1つです。今年度は217本の研究の応募があり、予備選考通過はそのうちの75本です。

・BL4Sプログラム shortlisted teams2020選出

BLASプログラムにアルゼンチンとの合同チームとして参加し、47か国198チームの中から1次通過者23チームに与えられる shortlisted teamsに選出されました。

本学院の3年佐久間紀丞、2年塩崎朝陽、2年曾我史苑、2年柳本和奏と、アルゼンチンのCEI San Ignacio Science Club、Huechulafquen Science Clubの合同チーム「Cancer fighters」として、放射線治療の大型動物応用へ向けた実験を提案しました。

[BL4S(Beamline for school)]プログラムとは CERN(欧州合同原子核研究機構)主催の高校生による加速器を用いた実験のコンペティションで、応募チームの中から選抜された上位2チームが実際に加速器で実験を行うことができるプログラムです。 https://beamlineforschools.cern/]



3. 学内講演 数学科特別ガイダンス

「2年生向け 数学(と数学教育)の卒論って?」

2020年7月27日(月)放課後に、2年生が卒業論文のテーマを決めるための一助とするために、数学科が主体となって特別ガイダンスを行いました。分散登校中ということもあり、このガイダンスの様子はzoomで同時中継され、Waseda Moodle上にもしばらく掲載しておりました。また、2年生に限らず、1年生の参加も見受けられました。まず、数学にはどのような分野があるのか、本庄学院生が数学で卒論を書く・研究をするということはどのような活動をするかというのが説明されました。その後、数学科の先生方から具体的な研究例を挙げてもらいました。これまでも実施してきた課外講義「これがサイエンスだ!」のカタログのような時間となりました。

参加した学院生にとっては難しい内容も多かったようですが、どのように数学の卒論を進めていくのかという具体的なイメージがわいたようです。今後こうした機会を設け、本庄学院で数学を研究することを盛り上げていければと考えております。



4. 課外活動 河川研究班の活動

市内河川環境保護と環境教育普及を目的に活動を継続している河川研究班(川研)ですが、今年度はコロナ禍の中、1学期は全く活動ができませんでした。春に予定されていた藤田小との合同河川調査は9月に延期されました。しかし、7月末からの第二波により、これは中止になりました。今年度の川研の活動は中谷財団の補助を受けて行っています。

* 藤田小との合同河川調査に向けた、河川調査研修(8月16日)
9月の合同河川調査に向けて、小学生に対して「たも網」の使い方を教える安全管理ができるように、小山川で河川調査研修を行いました。

* 合同河川調査(11月4日)
ようやく合同河川調査を行うことができました。例年だと小山川と元小山川で実施し、両河川を比べるのですが、小山川のポイントは昨年の台風19号で破損を受けており、危険と判断し、今年度は元小山川のみで行うこととなりました。4班に分かれ、学院生は藤田小5・6年生に指導と安全管理を行いました。

* 事後授業(11月11日)
前週の調査でわかったことをこの日、班毎に児童が発表しました。それを受け、学院生が調査における留意点「1つのデータから判断しないこと」「理由については、決めてからならないで、すべての可能性を探ること」「多くのデータを長い時間かけて集めることにより、傾向や特徴がわかってくること」を伝えました。その後、中谷財団の補助で購入した実体顕微鏡で河川中のプランクトンを確認し、目に見えない生物も川に住んでいることと食物連鎖について理解しました。



著作権に関して、JASSOに許諾を取り使用料を払うだけではないと思っています。開催直前に大きな混乱を生じさせてしまいました。実際は著作権隣接権が発生するため、市販の音源を動画作成の用途で使用する場合には、各々のレコード会社へ許諾をとり、音源の使用料を払う必要があります。Youtubeへアップロードする場合も、JASSOに許諾を取る必要はないが、著作権隣接権に関しては同様の問題が発生することが分かりました。このため、著作権に問題のないコンテンツ以外はホームページでの公表をとりやめ、Moodle内のみでの閲覧に留めることになりました。オンライン開催が決まった時点でこれらの知識があれば、著作権フリーな音源に限定して動画を作成させる、一般公開ができる形にできたのではないかと考えています。全ての団体の企画を見ることができ、こと・動画という形に残るものがあることなどは例年にない特徴であったと思います。また準備を通じて学院生の稲稜祭へかける思いの強さを再認識することができました。今年度は例年より稲稜祭執行部との関わりが深い年でした。彼らの柔軟な発想行動力仕事の速さが無ければ稲稜祭は開催できなかったでしょう。校内で彼らを見かけたら優しい言葉をかけてあげてくださいね。

私が稲稜祭の担当となるのも今年で4年目となりました。思い返せば、雨でメインステージが体育館へ移動になり、非常に密な環境の生じた1年目(テントをたたむ判断をしなかったせい)、雨の重みでテントも壊れ私の心も折れました。新体育館建設のためメインステージの場所が一転・三転した2年目、養生テープの使用ルールで混乱した3年目と問題なく終えることのできた年はありませんでした。昨年度の今頃は「4年目ともなれば今年こそは落ち着いて稲稜祭が開催できるのではないか?」と思っておりましたが、そうはいかなかったことは皆さんご存知の通りです。今年度の最初の稲稜祭実行委員会は5月16日にZoomで行われました。この場で今年度の稲稜祭執行部メンバーが決まりました。例年稲稜祭の準備には時間がかかるため、6月の教諭会・学院での意思決定はこの場で行われています。まだには開催の可否や実施方法を決めておきたかったのですが、実行委員の7月教諭会まで決定を先に延ばしてはいという強い要請もあり、7月の教諭会で開催方法を決定することになりました。オンライン授業期間中であつたため、Zoomで何度か会議を行いました。執行部が原案を練り、教務が学校側の視点から実現可能な案へ落とし込む、この作業を繰り返して感染予防を徹底し、対面で行うA案とオンラインによる開催のB案を作成しました。(執行部メンバーはA案を強く推していましたが、A案が否定されると今年度の稲稜祭も無くなってしまったため、B案も考えておくよう伝えました。対面で開催できない場合オンラインで稲稜祭を実施したいかを問うアンケートを3年生対象で実施したところ、開催62%中止38%でした。結果として、A案は会議を通らず、B案となりましたが、彼らの考えたオンライン案は「対面でのイベントは行わないが、クラスメイトと一緒に鑑賞して楽しむ」というものでした。今から考えてもこの案は最善の案であつたと思います。開催方法の大体は決まりましたが、実際に実施するためには問題が山積しております。その中でも特に大きな問題は配信のシステムと著作権に関するものでした。配信方法に関しては、学校教育の一環としての著作物の利用というラインを守る必要があります。学院生に限定してライブ配信を行うことを考え、外部サービスによるネット配信でなく校内のシステム(旅館など)でテレビの空いたチャンネルへ独自放送を流すのと同じ仕組みでの各教室への中継としました。しかし、実際には稲稜ホールの放送システムは、使用されていないにもかかわらず壊れておりました。稲稜祭に限らず、配信のシステムがあればいろいろな用途が考えられるため、強く訴えた結果修理してもらったことができました。また配信時の映像に臨場感を持たせるため、テレビの生放送のように複数のカメラをリアルタイムに切り替えできないかと考える業者を探しましたが、どこも高額の費用がかかり頭を抱えておりました。そのような状況の中、保護者の会の高橋会長から深谷のmotiontechさんを紹介していただきました。とても良心的な費用で細かなリクエストにも応じていただけたため、当日の配信の心配がなくなりました。また事前撮影を希望する団体の撮影や、直前のリハサルでも大変お世話になりました。

著作権に関してはJASSOに許諾を取り使用料を払うだけではないと思っています。開催直前に大きな混乱を生じさせてしまいました。実際は著作権隣接権が発生するため、市販の音源を動画作成の用途で使用する場合には、各々のレコード会社へ許諾をとり、音源の使用料を払う必要があります。Youtubeへアップロードする場合も、JASSOに許諾を取る必要はないが、著作権隣接権に関しては同様の問題が発生することが分かりました。このため、著作権に問題のないコンテンツ以外はホームページでの公表をとりやめ、Moodle内のみでの閲覧に留めることになりました。オンライン開催が決まった時点でこれらの知識があれば、著作権フリーな音源に限定して動画を作成させる、一般公開ができる形にできたのではないかと考えています。全ての団体の企画を見ることができ、こと・動画という形に残るものがあることなどは例年にない特徴であったと思います。また準備を通じて学院生の稲稜祭へかける思いの強さを再認識することができました。今年度は例年より稲稜祭執行部との関わりが深い年でした。彼らの柔軟な発想行動力仕事の速さが無ければ稲稜祭は開催できなかったでしょう。校内で彼らを見かけたら優しい言葉をかけてあげてくださいね。



「稲稜祭のオンライン開催に関する備忘録」

太田 洋平

生徒達の活躍

◆ サッカー部

「第99回全国高校サッカー選手権大会埼玉県2次トーナメント」

- 【1回戦】10月11日(日)@与野八王子公園G
対 川越 南高校 3-0 勝利 [得点者:双木(3年) 3得点]
- 【2回戦】10月18日(日)@立教新座高校G
対 浦和実業学園高校 4-1勝利 [得点者:金澤(3年)、神戸(3年)、双木(3年)、岡島(3年)]
- 【3回戦】10月24日(土)@埼玉工業大学G
対 正智深 谷高校 0-2 敗退 [得点者:なし]

◆ 硬式テニス部(男女)

- 埼玉県新人大大会 北部地区予選
(9月11日~14日、県大会出場分)
男子シングルス 2位 湯原悠登、3位 野田一成、4位 三森康平、7位 栗本賢、10位 平山遼太、15位 戸倉甲陽
女子シングルス 4位 長谷川柚希、8位 大竹媛子、10位 山岸沙弥美、25位 高橋希世子、29位 板野陽香
男子ダブルス 優勝 湯原・野田、6位 三森・平山
女子ダブルス 優勝 長谷川(柚)・大竹、11位 板野・菊地、16位 長谷川(歩)・米谷
- 埼玉県高等学校新人大大会 個人(9月26日~28日)
女子シングルス ベスト64 長谷川柚希
男子ダブルス ベスト16 野田一成・湯原悠登
- 埼玉県高等学校新人大大会 団体(10月24日~26日)
男子 5位 女子 5位
- 埼玉県北部地区団体戦(11月7日)
女子Aチーム 優勝
- 高校1年生チーム対抗戦(11月14日・15日)
男子 ベスト8



◆ ソフトテニス部(女子)

- 新人大大会北部支部予選会・女子個人戦
(9月13日@熊谷さくら運動公園)
第2位 岡本百葉(2F)・今泉菜々(2G)
ベスト20 生井里奈(2G)・桜井れい(2E)
※ 上記2ペアが県大会出場権を得ました。
- 新人大大会北部支部予選会・女子個人戦
(9月21日@東松山市宮庭球場)
ベスト8 ※ 県大会出場権を得ました。
- 埼玉県新人大大会・女子個人戦
(11月10日@熊谷さくら運動公園)
ベスト16 岡本・今泉ペア
- ※ 2人は県選手権大会高校シングルの部などへの出場権を得ました。

◆ ソフトテニス部(男子)

- 県北新人選手権大会・男子個人戦
(8月20・22日@熊谷さくら運動公園)
第1位 北原辰徳(2E)・矢島朋貴(2A)
ベスト32 宮下凌久登(2H)・松本京太郎(2A)、永田朔之心(1A)・東知優(2C)。
- 新人大大会北部支部予選会・男子個人戦
(9月12・14日@熊谷さくら運動公園)
第1位 北原・矢島ペア、ベスト32 宮下・松本ペア。
- 新人大大会北部支部予選会・男子団体戦
(9月19日@熊谷さくら運動公園) ベスト8。
- 埼玉県新人大大会・男子個人戦
(11月9日@熊谷さくら運動公園)
北原・矢島ペア、宮下・松本ペアとも2回戦敗退。
- 埼玉県新人大大会・男子団体戦
(11月14日@狭山智光山公園)
1回戦敗退。



◆ ラグビー部

第100回全国高等学校ラグビーフットボール大会
埼玉県予選 1回戦 9月27日(日)
早大本庄 0(0/0)-17(7/10)草加

◆春の関東大会予選、国体県大会、7人制大会がコロナですべて中止となり、7月の練習再開後も分散登校等の影響でなかなかまとめた練習ができないまま、3年生は最後の大会を迎えることになりました。中谷星偉主将(3H)をはじめ、選手全員が体を張ってボールを繋ぎ、何度も素晴らしいタックルを見せてくれましたが、無念にも、初戦敗退という結果になりました。結果は残念でしたが、逆境の中、最後まで戦い抜いたすべての選手、マネージャー達を讃えたいと思います。また、応援部の皆様には、心のこもった激励をいただき、どうも有難うございました。12月中旬からは鈴木大介さん(2B)率いる新チームの新人戦が始まる予定です。あらためて応援よろしくお願い致します。ワールドカップを観てラグビーに興味を持った人、自分でもやりたくなった人、ラグビー部はいつでも入部OKですので、是非グラウンドへ見学に来て下さい!お待ちしております!



◆ 男子バスケットボール部

- 学校総合体育大会北部支部予選大会
(1回戦8/20、熊谷農業高校)早大本庄60-東京成徳 深谷55
(2回戦8/23、北本高校)早大本庄68-熊谷農業40 県大会への出場を果たしました!
- 全国高等学校バスケットボール選手権大会埼玉県 予選会
(1回戦9/6、深谷ビッグタートル)早大本庄75-草加南73
(2回戦9/13、上尾南高校)早大本庄80-上尾南104 県ベスト32に入りました!
- 埼玉県新人大大会北部支部予選
(1回戦11/1、寄居城北高校)早大本庄86-深谷63
(2回戦11/3、熊谷西高校)早大本庄66-鴻巣83



◆ 女子バスケットボール部

- 令和2年度全国高等学校バスケットボール選手権大会
埼玉県予選会
令和2年9月5日(土)越谷市立総合体育館、
9月12日(土) 県立久喜高等学校
1回戦 VS秋草学園 71-68 ○
2回戦 VS埼玉栄高校 46-117 ×
結果 2回戦敗退
3年生が引退試合を経験できない学院生、他高校の生徒がたくさんいました。そんな中、女子バスケットボール部は1年生から3年生全員でこの大会に参加できたことに心から感謝しています。
- 令和2年度 埼玉県新人大大会 北部支部予選
令和2年度11月8日(日) 本庄高校、14日(土)15日(日)
児玉高校、21日(土)エコーピア
2回戦 VS本庄第一 92-61
3回戦 VS秩父 84-54
決勝リーグ VS松山女子 85-69 ○



◆ ワンダーフォーゲル部

日帰りでの定例山行と夏山・秋山合宿を中心に、部員5名で活動しています。例年、定例山行と秋山合宿は、関東山地での日帰りおよび1泊2日とし、夏山合宿は北アルプスに縦走登山に出かけます。日帰りでも5~6時間は歩く健脚コースを設定しています。今年度は2度の合宿を実施できませんでしたが、関東近郊の日帰り登山に出かけました。今年度に企画した山行は、次の通りです。人口密度が比較的に低いので、山を歩いて、気分をリフレッシュしてみませんか?
8/20 新歓山行 谷川岳(田尻尾根・天神尾根を経て頂上まで)
9/18 定例1回 榛名山(雷雨の為に途中で下山)
10/18 定例2回 榛名山(榛名湖から伊香保神社まで)



◆ 硬式野球部

県北8校トーナメント 優勝
いずれもケイアイスタジアム(本庄市民球場)にて
2回戦 11月3日(火)対本庄東高校 8-5
決勝戦 11月7日(土)対本庄第一高校 11-4(7c)



◆ 自転車部

第14回加須タイムトライアル・ロードレース
(会場:利根川上流河川敷内堤防強化工事用道路)
高校生(登録者)19位 櫻井 健(2年F組)
自転車部は高体連主催ロードレースや埼玉車連主催の秩父宮杯自転車道路競走・クリテリウムレースなどに出場しています。また、近隣のダム湖や眺めのいい峠を訪れたり、自然豊かな林道でのサイクリングを楽しむ活動を行っています。せっかくの学院生活、ここでしかできないことをやってみませんか?まだまだ入部大歓迎です。気軽に部員まで声をかけて下さい。



◆ バレー部

U-18 埼玉県ビーチバレーボールジュニア選手権女子の部
第3位 中村友香・山本彩夏



◆ 陸上競技部

本年度は残念ながら県、関東、全国高校総体および国体予選会が開催されませんでした。しかし部員達は自宅学習期間も試行錯誤しながら日々努力を積み重ね、その結果8月の北部地区大会では22名の選手が個人種目で入賞し、他校の顧問の方からも「早大本庄の選手は動きが違う」と感心されていました。中でも3年生の若林さんは男子400mHで全国高校ランキング18位となる記録53"24で優勝し、10月に広島で開催された全校高校陸上競技大会に出場を果たしました。また新人選では1年生の沼澤さんが男子棒高跳で埼玉県チャンピオンとなり関東大会に出場し、これからの活躍も期待されています。来シーズンの大会がどのような形で開催されるかはまだ不透明なところですが、どのような形で最高の結果を出せるよう、今部員達は冬季練習に励んでいます。

- 主な戦績(県大会以上)
埼玉県高校新人陸上競技選手権大会(9/26~28)
男子100m 第6位 高田和(2) 11"15
男子200m 第6位 高田和(2) 22"40
男子棒高跳 優勝 沼澤拓未(1) 4m20
女子5000mW 第6位 牧依瑠香(2) 29'47"86
関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会(10/24~25)
男子棒高跳 第22位 沼澤拓未(1) 4m00
全国高等学校陸上競技大会(10/23~25)
男子400mH 予選3組(第3位)若林樹(2) 53"68
全国高等学校駅伝競走大会埼玉県予選会
男子の部 25位 早大本庄 2'22'49"
(服部(2)-松田(3)-市川(3)-酒巻(1)-篠原(1)-阿久澤(1)-町田(2))
女子の部 33位 早大本庄 1'28'51"
(佐藤(3)-利田(2)-水野(2)-加藤(3)-永松(3))



若林(全国大会)および女子4x100mリレー(県北大会優勝)

◇ 政治経済部

第14回 全日本高校模擬国連大会 出場
森翼(2A)・塩坂郁人(2H)
11月14日・15日に開催された表題大会に、全国から選ばれた54チームのうち1つとして出場しました。今年の議題は「宇宙利用」で、森・塩坂はバン格拉デシュ大使を務めました。



◇ 囲碁将棋部

- ファーストロジック杯全国オール学生オンライン将棋大会
準優勝 3年 近藤 圭
- 第27回埼玉県高等学校将棋王位大会 男子個人A級
優勝 3年 近藤 圭
(12月26日に東京で行われる第31回関東地区高等学校文化連盟将棋大会へ出場)
- 第36回関東高等学校囲碁選手権大会埼玉県予選 女子の部
準優勝 2年 越後美波
2021年1月17日(日)に千葉で行われる関東大会へ出場)



◇ 茶道部

コロナ禍の中、第13期茶道部3年生は、活動を途切れさせないよう努力をいたしました。

- オンライン授業期間中に2度のZoomを用いた部活動紹介を行いました。また、Zoomを使ったお稽古を2回行いました。
- 分散登校中にA班B班、それぞれにおいてお稽古を開始しました。どの部活動でも同様だったと思いますが、班毎に部員数が偏っていたため、たいへんやりにくかったです。
- 夏休み入って間もない、8月初旬に3日間の集中稽古を行う予定でしたが、7月末からの急速な感染拡大により、対面での実施を中止とし、Zoomを用いたオンライン開催としました。
- 8月21日に宥勝寺をお借りして、蹲・躰り口を入れたお稽古を行いました。午後には、お茶碗づくりを行いました。
- 9月通常登校開始後は、例年通りの月土週2回のお稽古を行っています。
- 10月21日には、宥勝寺で「秋のお茶会」を開催しました。今までお茶会が実施できていなかったのが、今年度初めての茶会となります。10月26日~30日は稲稜祭ウィークと称し、中央階段で例年の稲稜祭時の呈茶のお稽古をしました。
- 今年度の稲稜祭はオンライン開催のため、参加できるわけではないのですが、この訓練をしないと特に1年生が稲稜祭時の振る舞いの経験ができなくなってしまうという、3年生の配慮からです。
- 30日には例年稲稜祭時に提供している、ハロウィンのお化けとカボチャの上生菓子を使い、実際の稲稜祭のシミュレーションを行いました。
- これが、3年生最後の活動になりました。

